

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	名古屋大学	整理番号	R02
プログラム名称	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム		
プログラム責任者	松下 裕秀	プログラム コーディネーター	武田 一哉

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、経済学と情報学等をデータ循環学で結びつける具体例を積み重ね、「データ循環学」が目指すところを明確にすることが期待される。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、「産学協働創造的グループワーク」などを通じた社会人メンターとの交流が、学生の進路に対するイメージに大きな影響を及ぼしている。その結果、プログラムは起業の機運に満ちているとのことであり、実際に意見交換した多くの学生が起業を目指している。また、本プログラムに関わることにより、学生がそのキャリア計画をより起業や民間企業寄りにシフトしている様子が良く分かり、好ましい傾向にあることは評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、外国人特任教員を5名採用し、社会人メンターとのディスカッションを含めて全てのプログラムを英語で実施している。また、社会人メンターと学生との定期的な議論、全ての学生に対する学内外2名のシニアメンターの配置、10名程度からなる学年を跨ったクラスへの2名程度のクラス担任の配置など、学生指導体制が整備されていることは評価できる。

優秀な学生の獲得については、人材啓発セミナーを活用し、企業のメンバーも参加して3日間かけて学生選抜を実施している。なお、高い合格倍率を維持しており、外国人学生比率も高く、多様かつ優秀な学生が確保されていることは評価できるが、今後定員数を満たすことが期待される。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、研究重視から価値重視への大学院教育の改革を目指し、学位審査の視点をピアレビューからソーシャルレビューにシフトさせるという挑戦的な取組である。また、「場を与え経験を評価する」ことを目的にSNSと学習履歴の評価システムであるeアゴラシステムを連動させ、「俯瞰」や「独創」という応用力を関係者全員が常時把握できるようにしている点は有効であり評価できる。ただし、ソーシャルレビューにおける審査基準に関しては、更なる検討が期待される。学位審査においては、研究成果を実現する実世界データ循環とその社会的価値を学位論文で考察するとのことであるが、審査基準の更なる検討が期待される。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も受け皿として存続する組織として「価値創造研究センター」を新研究科に設置することが決定され、また、プログラムの規模（特任教員数、受け入れ学生数、奨励金の有無）と財政確保に向けた具体的な方策も検討されており評価できる。